

# 令和4年度 数学演習第二 期末統一試験【問題用紙】

2023年2月8日実施・試験時間90分

— 解答用紙には答えのみを整理された形で記入すること —

**1** 次の2重積分の値を計算せよ。ただし、(3)の $\log$ は自然対数を表す。

(1)  $\iint_D xy \, dx dy, \quad D: 0 \leq y \leq x \leq 1.$

(2)  $\iint_D \cos(x+y) \, dx dy, \quad D: 0 \leq x \leq \pi, 0 \leq y \leq \frac{\pi}{2}.$

(3)  $\iint_D \log(x^2 + y^2) \, dx dy, \quad D: 1 \leq x^2 + y^2 \leq 4, y \geq 0.$

(4)  $\iint_D (x+y)e^{x-y} \, dx dy, \quad D: 0 \leq x+y \leq 1, (x+y)^2 \leq x-y \leq 1.$

**2** (5) 連続関数  $f(x, y)$  に対して、等式

$$\int_1^2 dy \int_y^{y^2} f(x, y) \, dx = \int_1^{\text{ア}} dx \int_{\text{イ}}^{\text{ウ}} f(x, y) \, dy + \int_{\text{ア}}^4 dx \int_{\text{イ}}^{\text{エ}} f(x, y) \, dy$$

が成り立つ。このとき、**ア** から **エ** に入るべき適切な数値または数式を答えよ。

**3** (6) 3重積分

$$I = \iiint_V \frac{1}{1+x^2+y^2+z^2} \, dx dy dz, \quad V: x^2+y^2+z^2 \leq 1, z \leq 0$$

を考える。  $V$  は極座標変換  $x = r \sin \theta \cos \varphi, y = r \sin \theta \sin \varphi, z = r \cos \theta$  により、

$$W: 0 \leq r \leq \text{カ}, \quad \text{キ} \leq \theta \leq \pi, \quad 0 \leq \varphi \leq \text{ク}$$

に対応する。  $I$  の値を計算すると、  $I = \text{ケ}$  となる。このとき、**カ** から **ケ** に入るべき適切な数値または数式を答えよ。

**4** 2変数関数  $g(x, y) = x^3 + 3x^2y + 3y^2 + 1$  について考える。  $g(x, y) = 0$  で定義される陰関数を  $y = \varphi(x)$  として、以下の設問に答えよ。

(7)  $\varphi'(x)$  を  $x, y$  の有理式で表せ。

(8)  $\varphi(x)$  の極値をすべて求め、解答欄には「点  $x = a$  で極大値（または極小値）  $b$  をとる」という形式で答えを記せ。

(9)  $f(x, y) = x + y, F(x, y, \lambda) = f(x, y) - \lambda g(x, y)$  とおくとき、連立方程式

$$F_x(x, y, \lambda) = 0, \quad F_y(x, y, \lambda) = 0, \quad g(x, y) = 0$$

の解  $(x, y, \lambda)$  をすべて求めよ。

(10) 条件  $g(x, y) = 0$  の下で、関数  $f(x, y) = x + y$  の極値をすべて求め、解答欄には「点  $(c, d)$  で極大値（または極小値）  $m$  をとる」という形式で答えを記せ。

**5**  $a, b$  を実数の定数とする.

$$f \left( \begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \\ x_4 \end{bmatrix} \right) = \begin{bmatrix} x_1 - 4x_2 + 5x_3 + 7x_4 \\ -2x_1 + 3x_2 - x_3 - 3x_4 \\ 4x_1 - x_2 + ax_3 + bx_4 \end{bmatrix}$$

によって定義される線形写像  $f: \mathbb{R}^4 \rightarrow \mathbb{R}^3$  に対して, 以下の設問に答えよ.

(11)  $f$  の像  $\text{Im } f$  の次元  $\dim(\text{Im } f)$  が 3 であるための  $a, b$  の条件を求めよ.

(12)  $a = -7$  とする.  $f$  の核  $\text{Ker } f$  の次元  $\dim(\text{Ker } f)$  が 2 になるための  $b$  の条件を求めよ.

(13)  $a = -7$  とする. 次元  $\dim(\text{Ker } f)$  が 1 であるとき,  $\text{Ker } f$  の基底を 1 つ求めよ.

**6**  $p, q$  を実数とし,  $\mathbf{a}_1 = \begin{bmatrix} 1 \\ 3 \\ 2 \end{bmatrix}$ ,  $\mathbf{a}_2 = \begin{bmatrix} 0 \\ 2 \\ 1 \end{bmatrix}$ ,  $\mathbf{b}_1 = \begin{bmatrix} p \\ 1 \\ 0 \end{bmatrix}$ ,  $\mathbf{b}_2 = \begin{bmatrix} q \\ 0 \\ 1 \end{bmatrix}$  とする. そして,  $W = \langle \mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2 \rangle$ ,

$\mathcal{A} = (\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2)$ ,  $\mathcal{B} = (\mathbf{b}_1, \mathbf{b}_2)$  とし,

$$g \left( \begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{bmatrix} \right) = \begin{bmatrix} x_1 + 3x_2 \\ -2x_2 + 6x_3 \\ x_1 + x_2 + 2x_3 \end{bmatrix}$$

によって線形変換  $g: \mathbb{R}^3 \rightarrow \mathbb{R}^3$  を定め,  $\mathcal{C} = (g(\mathbf{a}_1), g(\mathbf{a}_2))$  とするとき, 以下の設問に答えよ.

(14)  $\mathcal{B}$  が  $W$  の 1 つの基底となるように,  $p, q$  の値を定めよ. 以下,  $p, q$  をこれらの値とする.

(15) 基底  $\mathcal{B}$  に関する  $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2$  の座標  $[\mathbf{a}_1]_{\mathcal{B}}, [\mathbf{a}_2]_{\mathcal{B}}$  を求めよ.

(16) 基底  $\mathcal{A}$  から基底  $\mathcal{C}$  への基底変換行列を求めよ.

(17)  $g(W) = W$  であるから,  $g$  は  $W$  の線形変換  $g: W \rightarrow W$  とみなせる. このとき,  $g: W \rightarrow W$  の基底  $\mathcal{B}$  に関する表現行列を求めよ.

**7** 3 次正方行列  $M = \begin{bmatrix} 1 & -2 & 2 \\ 1 & -2 & 1 \\ 1 & -1 & 0 \end{bmatrix}$  に対して, 以下の設問に答えよ.

(18)  $M$  の固有値をすべて求めよ.

(19)  $M$  の最大の固有値に対する固有空間の基底を 1 つ求めよ.

(20) ベクトル値関数  $\mathbf{x}(t) = \begin{bmatrix} x_1(t) \\ x_2(t) \\ x_3(t) \end{bmatrix}$  に対する斉次線形微分方程式  $\mathbf{x}'(t) = M\mathbf{x}(t)$  の解  $\mathbf{x}(t)$

のうち, 初期条件  $\mathbf{x}(0) = \begin{bmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{bmatrix}$  をみたす解  $\mathbf{x}(t)$  の第 1 成分  $x_1(t)$  を求めよ.